令和8年度春期文部科学省におけるキャリア実習及びインターンシップ受入計画

指導担当者役職：総括係長
氏名：小林寛和

受入課室等名	研究振興局振興企画課		
募集学校種	○ 大学院　○ 大学　□ 短期大学　□ 高等専門学校　□ 専門学校 □ 高等専修学校　□ 高等学校　□ 中学校　□ 問わない （○がマークされている部分が希望学校種となります）		
受入時期 受入期間	2月1日(月)　～　2月26日(金) 2週間～4週間	受入人数 （受入時期内の合計受入数）	1人
選考時の面接の実施予定	予定あり　□ 予定なし　○		
受入条件	特になし		
実習内容	○業務体験（各係の業務内容の紹介と業務補助） ○科学技術・学術分野の振興に関する政策提案（政策課題に関するリサーチ、ヒアリング、施策提案等） ○職員交流（ご関心に応じて調整） ※上記は予定であり、変更となる場合がございます。		
受入課室等紹介	研究振興局は、大学等における学術・基礎研究や政策課題に対応した科学技術の振興を図り、研究力向上に資する基盤的な力の強化を図ることをミッションとし、学術の振興のための助成制度や研究開発に必要な大学等の研究基盤の整備、科学技術に関する基礎研究の振興など、幅広く研究の基盤的な部分を支える課がある一方、ライフサイエンス、ナノテクノロジー・材料科学技術、情報科学技術、量子科学技術等の個別の研究分野の振興を行う課も存在しています。 その中でも、振興企画課は研究振興の総合的な調整を行うほか、人文学・社会科学を含めた学術研究の推進に係る施策の企画・立案や科学技術・学術審議会学術分科会の運営等の業務を所掌しています。 そして、インターンシップでは、振興企画課の所管している業務紹介を行った後、課内の仕事を体験するほか、職員と交流していただき、政策提案を行っていただく予定です。		
受入課室等からのひと言	専門的な知識や技術は必要ありませんし、専攻分野も問いません。研究振興に関心があり、意欲のある積極的な方の参加をお待ちしております。		

令和8年度春期文部科学省におけるキャリア実習及びインターンシップ受入計画

指導担当者役職：機構・総括係長
氏名：出口確

受入課室等名	研究振興局基礎・基盤研究課		
募集学校種	○ 大学院　○ 大学　□ 短期大学　□ 高等専門学校　□ 専門学校 □ 高等専修学校　□ 高等学校　□ 中学校　□ 問わない （○がマークされている部分が希望学校種となります）		
受入時期 受入期間	2月8日(月)　～　3月26日(金) 2週間	受入人数 （受入時期内の合計受入数）	1人
選考時の面接の実施予定	予定あり　□ 予定なし　○		
受入条件	・文部科学行政（特に科学技術）に御関心があること ・Officeソフト（Excel、Word、PowerPoint）等の基本的な操作ができること ・自主性をもち、意欲ある姿勢をお持ちであること		
実習内容	・量子研究推進室の取組に関する業務説明、意見交換、課題検討体験 ・業務に関する打合せ、会議等への参加、準備体験、補助 ・量子研究推進室の取組に対する政策提案、そのための意見交換、背景意識の取得等 ※具体的な内容は応募者御本人と相談の上、志望動機や御希望、実習内容によって、柔軟に設定します。		
受入課室等紹介	量子研究推進室では、我が国の量子科学技術分野に関する多岐にわたる業務を実施しています。 【主な業務内容】 ○ 量子科学技術振興に関する企画・立案に関する業務 ○「量子情報処理（量子コンピュータ等）」や「量子計測・センシング」等の重要技術領域に集中投資し、社会・産業上の重要課題に対し、非連続的な解決を目指す「光・量子飛躍フラッグシッププログラム（Q-LEAP）」の実施 ○ 量子科学技術を支える「量子科学技術研究開発機構（QST）」に関する業務		
受入課室等からのひと言	量子研究推進室の業務に関心があり、意欲のある方の御参加を歓迎いたします。 御希望に応じて、量子研究推進室以外の職員にも話を聞く機会を積極的に設ける予定です。		

令和8年度春期文部科学省におけるキャリア実習及びインターンシップ受入計画

指導担当者役職：企画指導係長
氏名：新保　綾音

受入課室等名	研究振興局大学研究基盤整備課		
募集学校種	○ 大学院　○ 大学　□ 短期大学　□ 高等専門学校　□ 専門学校 □ 高等専修学校　□ 高等学校　□ 中学校　□ 問わない （○がマークされている部分が希望学校種となります）		
受入時期 受入期間	2月1日(月)　～　3月5日(金) 2　週間	受入人数 （受入時期内の合計受入数）	1人
選考時の面接の実施予定	予定あり　□ 予定なし　○		
受入条件	基本的なパソコン操作（ワード・エクセル・パワーポイント等）ができること。 学術研究行政に関する専門的な知識や技術は必要ありません。		
実習内容	【各係の業務補助】 ・大学共同利用機関、共同利用・共同研究拠点等に関する各種データの集計及び分析 ・集計、分析結果を用いた資料の作成 ・各種会議の資料準備及び傍聴、会場設営の補助 【各係の課題への施策提案】 ・今後の共同利用・共同研究体制の在り方等を含めた大学の研究力強化のための方策について 上記の実習を通じて、研究大学の抜本的強化のための施策や、最先端の研究装置等を含めた研究活動に必要な基盤の強化の取り組みについて体験いただき、考えるきっかけとしていただきたいと考えています。		
受入課室等紹介	大学研究基盤整備課は、我が国の国力の源泉である大学における研究振興のため、研究大学の抜本的強化のための施策や、最先端の研究装置等を含めた研究活動に必要な基盤の強化に取り組んでいます。 【当課の主な業務】（以下の言葉を聞いたことがなくても問題ありません） ○大学の研究力強化に関すること ○個々の大学では整備できない大規模な施設・設備や大量のデータ・貴重な資料等を国内外の研究者が共同で利用して共同研究を行う「共同利用・共同研究体制」の強化 ○国立大学の附置研究所及び大学共同利用機関法人の教育や研究に関すること ○「すばる望遠鏡」や「ハイパーカミオカンデ計画」などの世界の学術研究を先導する大規模プロジェクトの推進 ○学術に関する研究設備に関すること ○国際卓越研究大学制度に関すること ○大学ファンドに関すること 以上のとおり、当課では、分野を問わず、最先端の学術研究の推進に取り組んでいます。 共同利用・共同研究の仕組みや、学術研究の大規模プロジェクトの推進は我が国の学術研究の発展のための重要な仕組みであり、ノーベル賞につながる研究成果の創出にも貢献しています。		
受入課室等からのひと言	当課の業務に関心があり、意欲のある方を歓迎します。 今後の進路選択の一助になれば幸いです。		

令和8年度春期文部科学省におけるキャリア実習及びインターンシップ受入計画

指導担当者役職：専門職
氏名：本間　ゆりか

受入課室等名	研究振興局　学術研究推進課			
募集学校種	○ 大学院　○ 大学　□ 短期大学　□ 高等専門学校　□ 専門学校 □ 高等専修学校　□ 高等学校　□ 中学校　□ 問わない （○がマークされている部分が希望学校種となります）			
受入時期 受入期間	2月1日(月)　～　2月19日(金) 1　週間		受入人数 （受入時期内の合計受入数）	1人
選考時の面接の実施予定	予定あり　□ 予定なし　○			
受入条件	専門的な知識や技術は必要ありませんが、基本的なパソコン操作が可能な方 （Word、Excel、PowerPointで簡単な資料作成が可能）			
実習内容	学術研究推進課では、下記「受入課室等紹介」欄に記載しているように「科学研究費助成事業（以下「科研費」）」や「創発的研究支援事業」など、様々な業務を担当しています。 研修期間中の具体な業務は研修時期等も考慮の上、計画しますが、主に以下の業務全般を体験できるよう計画を立てる予定としています。 【主な研修内容（予定）】 ○科研費制度に係る政策課題検討 ○科研費審査会やその他当課関連委員会の傍聴 ○創発的研究支援事業に係る政策課題検討 ○当課関連法人における所管業務への理解促進 ○省内職員との意見交換			
受入課室等紹介	学術研究推進課では、大学等の研究者が人文学・社会科学・自然科学までの全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とした「科学研究費助成事業（以下「科研費」）」や挑戦的・融合的研究構想に、リスクを恐れずに挑戦し続ける独立前後の研究者を対象に研究資金と研究に専念できる環境を一体的に支援する「創発的研究支援事業」に関する業務など、研究者の個人研究費を中心とした政策立案を担当しています。 【学術研究推進課の主な業務】 ○科研費の審査・交付に関する業務 ○科研費の広報に関する業務 ○科研費の制度改善に関する業務 ○創発的研究支援事業に関する業務 ○独立行政法人日本学術振興会が審査・交付を行う科研費に関する業務 ○独立行政法人日本学術振興会の組織・運営に関する業務			
受入課室等からのひと言	大学院生、大学生いずれも受入を可能とします。 学術研究推進課の業務に関心があり、意欲をもって積極的に参加する方を歓迎します。			

令和8年度春期文部科学省におけるキャリア実習及びインターンシップ受入計画

指導担当者役職: 係員
氏名: 藤堂暢久

受入課室等名	研究振興局ライフサイエンス課		
募集学校種	○ 大学院　○ 大学　□ 短期大学　□ 高等専門学校　□ 専門学校 □ 高等専修学校　□ 高等学校　□ 中学校　□ 問わない （○がマークされている部分が希望学校種となります）		
受入時期 受入期間	2月1日(月)　～　2月26日(金) 1～2　週間	受入人数 （受入時期内の合計受入数）	1人
選考時の面接の実施予定	予定あり　□ 予定なし　○		
受入条件	ライフサイエンス研究の振興に係る文部科学行政について、意欲を持って学びたいという意志がある方。基礎研究の振興等、文部科学行政に広く興味のある方。		
実習内容	受入期間の業務状況を踏まえ、例えば以下のような業務を通じ、ライフサイエンス分野の研究振興の在り方に関する調査、分析等を行う。 ・ ライフサイエンス研究に関わる会議等の傍聴 ・ ライフサイエンス課が所管する研究機関への視察訪問 ・ その他一般事務等 ・ 課室内外の職員とのインタビューやディスカッション 実習初日に、実習生と相談の上、インターンシップ期間を通しての目標・課題・具体的な実習内容決定する。		
受入課室等紹介	ライフサイエンス課では、再生医療の実現に向けた人工多能性幹細胞（iPS細胞）等の研究、認知症やうつ病等の克服に向けた脳科学研究、個別化医療・個別化予防の実現に向けたゲノム医療に係る研究開発といった、幅広いライフサイエンス分野の基礎・基盤研究を推進するとともに、これらの研究に貢献する解析機器やバイオリソース等の基盤整備を支援しています。 生命倫理・安全対策室では、ヒト受精胚やES細胞、iPS細胞等を用いた研究やその他の人を対象とする生命倫理・医学系の研究を行う場合に研究者らが生命倫理的観点から遵守すべきルールや、生物多様性の確保のために遺伝子組換え生物等の使用等を規制するルール（カルタヘナ法）の策定・運用など、科学技術の健全な発展に向けた取組を行っています。		
受入課室等からのひと言	文部科学省での業務・職場の雰囲気、職員との交流等を通して、国家公務員/文科省の使命や業務に理解を深めていただき、今後の進路を考える際の一助となれば嬉しく思います。		

令和8年度春期文部科学省におけるキャリア実習及びインターンシップ受入計画

指導担当者役職：専門職
氏名：梅田稔子

受入課室等名	研究振興局研究振興戦略官（先端医科学研究担当）付			
募集学校種	○ 大学院　○ 大学　□ 短期大学　□ 高等専門学校　□ 専門学校 □ 高等専修学校　□ 高等学校　□ 中学校　□ 問わない （○がマークされている部分が希望学校種となります）			
受入時期 受入期間	2月1日（月）　～　3月19日（金） 1　週間		受入人数 （受入時期内の合計受入数）	1人
選考時の面接の実施予定	予定あり　□ 予定なし　○			
受入条件	大学生レベルの生物・化学が理解出来かつWord、Excel、PowerPointが使えること。英語サイトを含むインターネットや生成AIを用いた情報収集に慣れていること。データ整理、情報収集、要約の経験（論文執筆経験等）がある学生を積極的に受け入れたい。			
実習内容	研究振興戦略官（先端医科学研究担当）付では、下記の「受入れ局課室紹介」欄に記載している様々な業務を行っています。受入期間の業務状況・実習生と相談の上、例えば以下のような業務を通じ、ライフサイエンス分野の研究振興の在り方に関する調査、分析等を行う予定です。 ・ ライフサイエンス研究に関わる会議等の傍聴 ・ 当付業務の関連研究領域に関する国内外の動向調査等 ・ その他一般事務等 ・ 職員とのインタビューやディスカッション			
受入課室等紹介	【研究振興戦略官（先端医科学研究担当）付の主な業務】 ○ 感染症研究（ワクチン開発含む）に関すること ○ 医療機器開発研究に関すること ○ がん研究に関すること ○ ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラムに関すること ○ 量子科学技術研究開発機構（がん、認知症等の革新的な診断・治療技術に関する研究開発）に関すること ○ 福島国際研究教育機構に関すること			
受入課室等からのひと言	文部科学省での業務・職場の雰囲気、職員との交流等を通して、国家公務員/文科省の使命や業務に理解を深めていただき、今後の進路を考える際の一助となれば嬉しく思います。			

令和8年度春期文部科学省におけるキャリア実習及びインターンシップ受入計画

指導担当者役職：専門職、係員
氏名：黒田、礒邉

受入課室等名	研究振興局参事官（ナノテクノロジー・物質・材料担当）付		
募集学校種	○ 大学院　○ 大学　□ 短期大学　○ 高等専門学校　□ 専門学校 □ 高等専修学校　□ 高等学校　□ 中学校　□ 問わない （○がマークされている部分が希望学校種となります）		
受入時期 受入期間	2月1日(月)　～　3月26日(金) 1～2　週間	受入人数 （受入時期内の合計受入数）	1人
選考時の面接の実施予定	予定あり　□ 予定なし　○		
受入条件	特になし。（専門的な知識や技術は必要ありません。）		
実習内容	具体的な実習内容については、参加者の方の希望を考慮して計画します。興味・関心がある業務について、学生・生徒調査票の志望理由もしくは希望業務欄に記入してください。 （業務例） ○マテリアル分野の動向・政策の調査 ○事業運営に関する業務 ○職員や有識者とのディスカッション ○会議運営業務 ○政策立案の体験 ○施設見学 等		
受入課室等紹介	スマートフォンや自動車、AI・ロボットなどは、私たちの暮らしを便利にしてくれます。これらは、リチウムイオン電池や電子回路など、ナノテクノロジーや物質・材料科学の研究開発の成果に支えられています。また、一部の材料には特定の国に依存度が高い資源が用いられており、これらの資源の代替・削減等に資する研究も期待されています。 当付では、こうした社会課題の解決に不可欠なナノテクノロジーや物質・材料科学技術分野に関する政策の企画立案・推進等を行っています。 【主な業務】 ○データ駆動型研究による新しい材料の研究開発に関すること ○全国の最先端研究設備や研究データの共用基盤に関すること ○国立研究開発法人物質・材料研究機構（NIMS）に関すること		
受入課室等からのひと言	文部科学省におけるマテリアル分野に関する業務や、我が国の自律性・不可欠性を高める科学技術・イノベーションに関心があり、意欲と好奇心のある積極的な方の参加をお待ちしております。		